



祐介の目

大田ゆうすけ No.79
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

であった。あれから33年が経過してオートバイブームは去り、組織的な暴走族も激減して現在はツーリングを楽しむ正統派のライダーが中心だ。私は、内海大橋を望む新たな公園も建設されるなど、福山市の大きな観光資源であるグリーンラインを有効利用すべく市も警察と連携して規制解除に向けて踏み出されては？と3月議会で質問した。枝広市長からは「地域住民の理解や交通の安全性の確保を前提とした規制解除を期待している。規制解除により新たな魅力的なツーリングルートとなることが期待される。」と大変前向きな答弁を得た。

昭和60年以降グリーンライン(県道後山公園洗合線)は原付・自動二輪終日通行止めとなっている。昨年、NPO法人グリーンラインを愛する会に対して、ツーリングの道中にグリーンラインに立ち寄り違反切符を切られたライダーから規制を疑問視するメールが寄せられた事から規制解除の検討が始まった。さる2月22日には福山西警察署が道路周辺の住民に対して説明会を開催した。近年は事故や苦情も減り、規制解除に向けて理解を求めたところ住民も理解を示したという。

通行止めとなった当時は大変なオートバイブームであり、グリーンラインでも多数の死亡事故が発生した悲しい歴史がある。また街中ではマフラーを改造して爆音を響かせる暴走族が走り回り、オートバイに対する市民のイメージは最悪

また1月末から、春になれば風光明媚な燧灘を眼下に沿道の桜を眺めながらグリーンラインを走ること、facebookで規制解除を要望するライダーによる署名活動を始めた。それは規制解除を求めるだけでなく、安全運転を誓う内容のものである。大きな反響を呼び、3月19日には723筆の署名を西署の佐々木署長に提出したところ、県警に対して上申することを約束してくれた。最終決定は広島県公安委員会だが、規制解除のあかつきには白バイを先頭に交通安全「自動二輪再開通パレード」をやりたいと要望させていただいた。